

# 三陸復興・振興方策調査 調査報告骨子（案）

## 【調査報告の趣旨】

●復興道路等の整備やフェリー航路開設等、三陸地域をめぐる環境変化や復興まちづくりや道の駅整備等の市町村の取組みが進展。

●中長期的な視点や広域的な観点に立ち、新たな三陸地域を築いていくための考え方やアイデア等を取りまとめたもの。

●県はもとより、この報告をひとつの参考として、様々な主体が新たな三陸地域を築いていくための方策を立案することを期待。

## 【基本的な方向性】

- ・交通ネットワークの環境変化を三陸地域のヒトとモノの交流に繋げる
- ・地域で活動する人々の相互連携や支援の仕組みを整え、地域づくりを促進する
- ・伝統技術と先進技術を融合させ、三陸ならではの豊かな時間を享受できる新たなライフスタイルを実現する

## 三陸の復興・振興

伝統技術と先進技術の融合した地域文化・自然環境の豊かさやゆったりした時間を享受できる新たなライフスタイルを実現



主体的に活動する地域内外の人々による地域づくりを促進

震災を経て大きく利便性が向上する交通ネットワークを活用

三陸の豊かな自然環境・農林水産資源  
震災から立ち上がる多様な取組み

## 【今後の展開】

### ●県が主体となって取り組むもの

すぐに着手できるものについては三陸創造プロジェクトや第3期アクションプラン構成事業等として事業化。

中長期的な課題については、第3期復興実施計画の策定等とあわせて検討。

### ●市町村が主体となって取り組むもの

各市町村と緊密な連携を図るとともに、沿岸市町村期成同盟会の活動と歩調を合わせ、具体化を促進。

### ●その他の主体が取り組むもの

機会を捉えて、国への提言や、民間団体・企業等への提案、支援等により具体化を推進。

## A 産業

### ●交通環境の変化を捉えた産業振興

- ・道路沿いに物流幹線を支える沿道機能やまとまった荷物が無いと物流網として活用できない。（物流事業者）
- ・早採りワカメを首都圏の翌日の朝食に間に合うように出荷をしたい。（漁協）
- ・水揚げから出荷までの時間が延びれば加工によって付加価値を付けることができる。（水産加工会社）
- ・海外へ国内の製品を集めて出荷も考えられるかもしれない。その際の利用条件は、車よりどれだけ安くなるのかが重要。（製造事業者）

### ●水産業の販売力の強化

- ・コンテナ一杯の魚を市場で売っても、缶コーヒー本分の値段にならないこともある。（市町村長）
- ・情報誌による直売に取り組み始めており、直売により消費者と生産者の距離が短くなることを期待している。（漁協）
- ・水産業はもっと売る努力が必要。例えば九州に比べてもブランド化が遅れている。（産業専門AD）

### ●持続可能な地域産業の形成

- ・将来経営を任せられる優秀な若手を確保したい。（水産加工事業者）
- ・地域の山ぶどうや塩を使った特産品開発が、地域への雇用も生み出しており、地域資源を活用した持続可能な産業づくりを行いたい。（市町村長）

### ●滞在型・通年型の観光の活性化

- ・三陸の観光は冬をどう乗り切るかが課題。（宿泊事業者）
- ・毛ガニの食べ放題は三陸でしか行われておらず、昨冬では2,000人の新たな宿泊需要につながった。（交通事業者）
- ・修学旅行や企業研修の引き合いが多い。道路環境が良くなれば現地のコンテンツも幅が出てくる（観光関係団体）
- ・学習指導要領改正に伴って体験型教育旅行へのニーズが拡大しており、観光に強く取組む漁業者も必要。（観光専門AD）

### ●復興した姿の発信

- ・WRC釜石市大会にあわせてイベントを行うなど、みんながそこに向かって取り組むことが出来る企画も大切。（市町村長）
- ・今年の越後妻有大地の芸術祭では約50万人の来場があった、参加集落も増えている。（十日町市大地の芸術祭事務局）
- ・水上飛行機を活用した三陸地域への直行便など思い切った取り組みもありえるのでは。（復興未来塾 島川氏）

### ●地域の集客力の向上

- ・三陸地域は各々の観光テーマが類似しており、プロダクトアウト型の誘致では限界がある。（観光専門AD）
- ・フェリー就航による北海道からの教育旅行誘客に期待があり、民泊に積極的に取組んでいる。（陸前高田市）

## C コミュニティ

### ●生活圏の変化への対応

- ・道路整備により従業員の通勤の利便性向上や、広域での従業員募集もできるようになることに期待がある。（製造事業者）
- ・市民プールや400mトラックなど広域的に活用できる施設は、年間の稼働率も低く各自自治体がそれぞれ持つ必要は薄い。互いに30分で移動出来るから共有すれば良い。（市町村長）
- ・広域で仕事を創出し、村から通ってほしい。（市町村長）

### ●多様な人材の参加によるコミュニティの再生・強化

- ・人材を受入れ、外部の知恵を活かす「オープンシティ」に取り組んでいる。（市町村長）
- ・コミュニティの課題は住宅再建後も続く。移住・定住に取組みながら地域課題を解決していく。（コミュニティ専門AD）

## 時間短縮効果を付加価値へ

### A-1 三陸まるごと直送プロジェクト

#### 鮮度が命の農林水産物を消費地に直送し高付加価値化

- ・ワカメ・ホタテ・サケ・アイガモ等の三陸産品を仙台や東京のレストランや消費者に最速で届ける物流網構築・国内外への航空便による即日配達網の活用

### A-2 物流強化プロジェクト

#### 港湾の活用による県内企業の競争力向上

- ・港湾や復興道路等を組み合わせ効率的な物流ネットワークを構築
- ・コンテナやフェリーなど役割分担の明確化による港湾利用率向上

### A-3 三陸水産品ブランド構築プロジェクト

#### 生産者の意欲と所得向上に資する産地ブランドの形成

- ・隙間市場におけるトップを目指す商品開発（例：荒海団スキャロップホタテバー/重茂早採りわかめしゃぶしゃぶ）
- ・消費者との相互交流による生産者のやりがい向上と継続的な直販ルートの確立
- ・生産性向上のための水産加工ロボット開発支援

### A-4 三陸産業プラットホーム形成プロジェクト

#### 企業における人材・資金・経営面の課題を組織的に支援

- ・中小企業単独では困難な人材募集・研修を共同実施（例：日本財団『WORKFOR東北』/Starting Over 三陸）
- ・気概のある経営者に対する起業、第二創業の重点支援
- ・民間による社会的投資・クラウドファンディングの推進

### B-1 三陸観光コンテンツ充実プロジェクト

#### 三陸ならではの付加価値の高い観光コンテンツを充実

- ・豊かな食材を味わうことができる店やメニューの充実（フィッシャーマンズフーフ・一流シェフによる出店促進・毛ガニ・ドンコ等）
- ・学校や企業のニーズに対応した防災ツアープログラムの開発
- ・宮古室蘭フェリー、三陸復興国立公園、三陸ジオパーク、世界遺産釜石鉄鉱山等を活用した体験型観光メニューの充実

### B-2 三陸まるごとエキスポプロジェクト

#### イベント契機とした観光地としての魅力と機能の向上

- ・山田線の復旧を契機とした三陸が一体となって盛り上がる新たなイベントの企画
- ・復興の取組みや震災を乗り越えて伝わる技術や伝統を魅せる
- ・水上飛行機によるアクセスや先進的な自動運転車（ロボットカー）の試験運行

### B-3 三陸観光マネジメントプロジェクト

#### 人材育成・商品開発・情報発信の戦略的な実施体制確立

- ・三陸広域のDMOが各地域の観光リーダーを支援し、観光プログラム開発、地域間連携を促進
- ・「重点道の駅」の設置や情報発信の強化など、三陸観光のコンテンツをプロデュース

## アクセス性向上を交流拡大へ

## 生活圏拡大を地域活性化へ

## 資料 4



三陸産品直送トラック



コンテナ貨物



スキャロップ(ホタテ)バー



人材の共同募集説明会



一流シェフの三陸食材レストラン



水上飛行機でのアクセス



地域の観光リーダー



三陸鉄道の活用



釜石隊活動風景（ラジオ放送）